

1. 開催日時・場所

大野神戸IC地区	2019年8月22日 (木) 14:00~15:30	大野町役場大会議室
山県IC地区	2019年8月29日 (木) 14:00~15:30	山県市役所大会議室
東回り区間	2019年8月27日 (火) 10:00~11:30	美濃加茂市生涯学習センター
北勢地区	2019年10月7日 (月) 14:00~15:30	三重県四日市庁舎大会議室

2. 参加者

大野神戸IC地区 (計23名参加)

大垣市、瑞穂市、本巣市、海津市、養老町、垂井町、関ヶ原町、神戸町、輪之内町、揖斐川町、大野町、池田町、北方町

山県IC地区 (計9名参加)

岐阜市、羽島市、山県市、岐南町、海津市

東回り区間 (計15名参加)

多治見市、関市、美濃加茂市、土岐市、各務原市、可児市、坂祝町、富加町、八百津町、御嵩町

北勢地区 (計17名参加)

四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曽岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町

3. WSの目的・テーマ

【目的】

当ワークショップにより、地域の現状や目指すべき姿を東環沿線地域で共有し、東環の整備促進に向けた機運を高めるとともに、東環を利活用することによって地域にもたらされるストック効果を最大化する取り組みの方向性をとりまとめます。

【ワークショップテーマ】

- テーマ1：東環等に関わる現状・課題
- テーマ2：東環を活用した東海環状沿線地域の将来像

【アウトプット】

- アウトプット1：沿線地域が現状で認識している地域課題・東環のストック効果
- アウトプット2：沿線地域が考える東環を活用した目標とする将来像
- アウトプット3：1、2の結果を踏まえた取り組みの方向性 (アイデア)



4. ワークショップ風景

各WSともに、A、Bの2つのグループに分かれて実施しました。



大野神戸IC地区ワークショップ結果概要

1. 当地区が抱える課題と取組み

課題としては、「産業」では用地確保・農業振興地域の土地利用、企業誘致に係る課題が多く挙げられています。また、「観光・交流」では新たな客の取り込みに係る課題、「まちづくり」では人口減少・流出に係る課題が多く挙げられています。

取組みをみると、「産業」に関連して、農業流通、産業の見直し、社会情勢の変化を踏まえた取組みがみられます。「観光・交流」では道の駅の活用、施設の構想・オープンといった取組みがみられます。

【課題】

産業

【用地確保・農業振興地域の土地利用】

- ・農業振興地域の宅地（除外）化、除外が困難
- ・農振地域の土地利用、企業誘致
- ・農業振興地域がIC周辺を占めており、転用が難しい状況
- ・他の事業への転用制約年（8年）
- ・大垣西IC周辺について用途区域の設定に面積制限がある

【企業誘致】

- ・企業誘致に向けたPR不足
- ・企業誘致（工業団地整備）
- ・情報のアフターフォロー
- ・開通見通しが前倒しになったが、利用者が開通のイメージをできていない
- ・国内回帰する企業へのアプローチ

【農業の活性化】

- ・農業の衰退・人口の減少
- ・主産業が農業のみ

【雇用創出・確保】

- ・雇用の確保

観光・交流

【新たな客の取り込み】

- ・観光施設基盤の整備（インバウンド等）
- ・観光客の呼び込み、観光施設の整備
- ・新たな客の取り込み
- ・観光客ターゲットの絞り込み

【特産品の開発・アピール】

- ・特産品の開発
- ・観光資源がない。
- ・農産物のアピールが下手

【観光ルート・観光資源の開発】

- ・観光ルート整備
- ・観光資源の利活用（周遊ルート）

【滞在時間の拡大】

- ・宿泊施設の不足（滞在を促すため）
- ・観光客滞在時間の拡大、消費拡大

まちづくり

【人口減少・流出】

- ・人口減少
- ・空家対策
- ・人口流出
- ・定住化
- ・税収減少

【インフラ整備】

- ・道路整備に予算がつかない
- ・アクセス道路の整備の必要性

【住民参加】

- ・小学校区単位で実施され続けている地区イベントの集約化
- ・住民、利用者の意識、認識向上

【景観の維持】

- ・農村景観の維持

【取組み】

- ・農業流通促進
- ・土地利用型の産業の見直し
- ・農業振興地域対応非線引き・用途の特定
- ・経済貿易摩擦の影響考慮
- ・トヨタ自動車の方向性の転換による影響考慮
- ・町の魅力（持続可能な開発・バランス）

- ・IC周辺、道の駅近くに観光農園構想
- ・道の駅、池田温泉の集客に力を入れている（イベント等）
- ・観光誘客（岐阜関ヶ原古戦場記念館オープン）

- ・病院の進出
- ・（仮称）本巢PA公園を計画中

2. 当地区が目指す姿

周辺地域と連携して目指す姿としては、地域外からの人々を西濃地域に呼び寄せる「観光」に関する声が多く挙げられました。

各地域単独で目指す姿

【産業】

- 新しい産業の開発が進む地域

【観光】

- 当地域ならではの産業が呼び込まれている
- 地域ブランドの確立・向上されている地域

【交通】

- 域内をマルチモードでアクセスできる地域

周辺地域と連携あるいは広域連携して目指す姿

【観光】

- 各市町の取組が重複せずいつでも何かが楽しめる地域
- 各市町が持っている観光資源を地域一体として一つになっている地域
- グルメのイメージが押し出されている地域
- サイクリング等を活用した観光ルート、広域ルートが整っている地域
- 沿線地域ブランドの確立・向上している地域
- 県レベルでの当地域のPRにより国内に知れ渡っている地域
- 河川も資源として活用した地域

【交通】

- 市域を越えたマルチモードアクセスができる地域
- 東海環状を含めた道路が使いやすい地域

【防災】

- 防災面で優位性を活かした地域
- 災害対応が進んでいる地域

【産業】

- 産業都市としての基盤づくりが進む地域

3. 目指す姿に向けた取組アイデア（周辺地域と連携あるいは広域連携する具体内容）

【観光】や【交通】に関するアイデアが多く挙げられました。特に、大野神戸 IC を起点とした街道・観光ルートや道路整備への取組アイデアが複数確認できました。

【観光】

- ご当地グルメの作成・PR
- 広域観光ルートバス
- イベントカレンダーの作成
- 大野神戸 IC を拠点とした観光ルートの確立
- 大野神戸 IC 拠点の福井への街道のPR
- 類似観光施設スタンプラリーでの連携
- 大河ドラマなどの民間とのコラボレーション
- 田園地帯の景観を活用した観光資源の開発
- イベント競合をなくし、連携して広域テーマを掲げる

【交通】

- 主要な場所を通るバスルートの作成
- 市町域を超えた公共交通バスの運行
- 東海環状道に公共交通を走らせる
- 自転車レンタルの整備
- ラストワンマイルの強化と他交通との連携
- 主要なところに行けるバスルートの開発
- 高速道路の自動運転化
- 料金施策の充実

【まちづくり】

- 名古屋から一番近い農村地域として発信
- 目玉となる場所をつなぐイメージづくり
- 様々な年齢層が楽しめるまちづくり

【道路整備】

- 大野神戸 IC を起点とした道路整備
- 大野神戸 IC から関ヶ原 IC へのアクセス改善

【企業誘致】

- IC周辺工業団地整備推進
- 産業誘致を広域でPR

山県 I C 地区ワークショップ結果概要

1. 当地区が抱える課題と取組み

課題としては、「産業」では用地確保・農業振興地域の土地利用に係る課題が多く挙げられています。また、「観光・交流」では新たな客の取り込みや観光地アクセスに係る課題、「まちづくり」では土地確保に係る課題が多く挙げられています。

取組みをみると、「観光・交流」に関連して、交通に関連した取組や商品開発等、様々な取組みがみられます。

【課題】

産業

【用地確保・農業振興地域の土地利用】

- ・ ICから3km以内の工場用地の確保難しい、農地とのすみわけ
- ・ 農業振興地域が多い、農地転用
- ・ まとまった土地がない
- ・ 用地確保
- ・ IC付近に工業用地の確保

【渋滞】

- ・ 名神高速の渋滞（企業がいやがる）
- ・ 物流拠点の拡大期待、ルートの拡大による渋滞解消

【農業の活性化】

- ・ 農業組合との協力
- ・ 農業とのバランス

【企業誘致】

- ・ 開通見通しが遠いため、企業誘致が進みにくい

【雇用創出・確保】

- ・ 魅力ある雇用の創出

観光・交流

【新たな客の取り込み】

- ・ 観光誘客コンセプト明確化
- ・ 観光客受入体制の整備
- ・ 広域観光誘客
- ・ 知名度向上

【観光地アクセス】

- ・ 市内観光地からICまでに距離がある
- ・ I Cからの距離
- ・ 観光バスが入れる道路整備（I Cアクセス）

【観光ルートの整備】

- ・ 複数地点の周遊促進
- ・ 観光資源発掘

【渋滞】

- ・ 駐車場が少ないため、渋滞が発生する

【滞在時間の拡大】

- ・ 市内滞在時間の延長

まちづくり

【土地確保】

- ・ 宅地化が進んだが、土地が残っていない
- ・ 一体利用できる広い土地が少ない（無秩序に開発されている）
- ・ 岐阜羽島IC周辺地域が市街化調整区域

【インフラ整備】

- ・ 道路（市道）開発に必要な接道用件
- ・ 東環状と接続する道路と一体で進める必要あり

【人口減少】

- ・ 人口が増えない、一気に高齢化
- ・ 人口増（目標）雇用確保

【都市計画】

- ・ I Cを中心とした都市計画の充実

【取組み】

- ・ 物流拠点の拡大期待、ルートの拡大による渋滞解消
- ・ 団地の可能性調査

- ・ パークアンドライド（シャトルバス）渋滞減
- ・ 岐阜市NPO法人等との連携
- ・ 観光客受入観光ガイド育成
- ・ 観光商品開発（名古屋発モニターツアー）
- ・ I C付近の彼岸花名所とのアクセスを計画
- ・ I Cから主要観光拠点へのサイン計画
- ・ 西濃全体で観光してもらおう（他市も）
- ・ ファミリーパーク整備 長大すべり台（東海随一）

- ・ 公共交通 バスターミナル整備
- ・ ハイウェイバスをとりこみたい
- ・ 岐阜地域広域圏協議会

2. 当地区が目指す姿

周辺地域と連携して目指す姿としては、「観光の拠点化」、「大河ドラマを契機とした地域連携」、「知名度上昇」が挙げられました。

各地域単独で目指す姿

【定住】

- 定住化が進む地域
- 人口が維持できる地域

【産業】

- 企業立地が促進されている地域

【観光】

- 交流人口が増加し地域経済が活性化している地域

【まちづくり】

- I C を核としたコンパクトシティが形成されている地域

周辺地域と連携あるいは広域連携して目指す姿

【観光】

- 観光の拠点化が進む地域
- 大河ドラマを契機とした地域連携が進む地域

【まちづくり】

- 知名度が上昇している地域

3. 目指す姿に向けた取組アイデア（周辺地域と連携あるいは広域連携する具体内容）

【観光】において、関西方面からの観光客誘致や宿泊客誘致といったアイデアが多く挙げられたことが特徴的です。

【観光】

- スキー客のキャンプ場等への宿泊者の取り込み
- 四日市港のクルーズ船からの誘客
- 体験型アクティビティを活かす
- 関西地方からの外国人誘客
- 行政界を超えた観光PR等の連携
- 関西向けの共同観光PR
- 宿泊と日帰りの棲み分けした相互連携PR
- 関西スキー客の取り込み
- 宿泊モデルプランの構築
- 岐阜羽島駅を拠点とした沿線への観光客の展開

【まちづくり】

- I C 付近に目玉スポットを形成
- 東環を利用すると通勤時間がよいことのPR

【産業】

- 関西への販路拡大

【交通】

- バスターミナルと名古屋市直行便の開設

東回り区間ワークショップ結果概要

1. 当地区が抱える課題と取組

課題としては、「産業」では用地確保・農業振興地域の土地利用、企業誘致に係る課題が多く挙げられています。また、「観光・交流」では新たな客の取り込みや観光地アクセスに係る課題、「まちづくり」では土地確保の課題が多く挙げられています。

取組みをみると、「産業」に関連して、工業団地計画や規制緩和、4車線化などの取り組みがみられます。

【課題】

産業

【用地確保・農業振興地域の土地利用】

- ・インター付近における企業進出、希望の増加、希望にそえる場所の提供が困難
- ・農振転用、農家との調整
- ・企業等進出に伴う農政との調整
- ・I C付近に農振農用地が多い
- ・工業用地の確保、農振がハードル（8年ルール）
- ・土地の確保、立地を急ぐ企業の要望に応えられない
- ・企業用の土地はない、まとまった土地がない

【企業誘致】

- ・企業受入基盤の整備
- ・次なる企業誘致
- ・豊田関連企業からの用地問い合わせ
- ・競合に負ける、土地の値段、造成に時間かかる
- ・西回りの整備工業団地との流通等

【雇用創出・確保】

- ・生産年齢人口の増加
- ・新たな工業団地の造成、雇用の確保

【開発】

- ・開発とのバランス
- ・地場産業との共存

【インフラ】

- ・企業BCD 4車線化

観光・交流

【新たな客の取り込み】

- ・観光客の増加（杉原千畝記念館）年間3万人弱→増やすために
- ・都市圏(名古屋)からの観光客流入、呼び込み
- ・+αの観光スポットもう一足先への立ち寄り
- ・観光施設集客が見込めない

【観光地アクセス】

- ・ICからのアクセス向上の必要性
- ・道の整備（恵那方面からの）
- ・国道の渋滞が課題

【滞在時間の拡大】

- ・宿泊施設

【観光ルート・観光資源の開発】

- ・アウトレット・イオン以外のものが弱い

まちづくり

【渋滞】

- ・インターを降りてからの道路の整備（中心地への案内など）（生活道路渋滞への影響）
- ・道路の整備が間に合わない。大型店に交通が集中。
- ・渋滞対策・名神(一宮周辺)

【インフラ整備】

- ・インターチェンジからのアクセス道路の充実
- ・幹線道路の整備
- ・交通量増による安全性低下

【人口減少・流出】

- ・若い世代の流出（独占の方も流出）
- ・人口増対策

【土地確保】

- ・インター付近特定用途制限

【公共交通】

- ・公共交通

【取組み】

- ・可児御嵩 I C 周辺の工業団地造成計画
- ・IC周辺の特定期間用途制限地域の規制緩和
- ・新たな企業誘致
- ・4車線化の要望
- ・安全安心な計画の位置付け、リダンダンシーの確保、防災面の強化を目指す

(なし)

- ・誘致企業社員の移住受入施策の実施

2. 当地区が目指す姿

周辺地域と連携して目指す姿として、「観光」だけでなく、「まちづくり」や「産業」など幅広い分野で、連携を望む声が挙げられました。

各地域単独で目指す姿

【まちづくり】

- 自動運転により駐車場がいらなくなり、新たな土地活用ができる地域
- 自動運転により人件費削減、交通事故減少、IC周辺の土地の需要が増加する地域

周辺地域と連携あるいは広域連携して目指す姿

【観光】

- 中山道が外国人にPRできている地域
- スマートICを活用して、観光やまつりへの入込みが増える地域
- 相互PRにより域内の周遊が活発化している地域
- SAを活用した特産物の紹介ができている地域

【まちづくり】

- 自動運転により駐車場がいらなくなり、新たな土地活用ができる地域
- 自動運転により人件費削減、交通事故減少、IC周辺の土地の需要が増加する地域
- 歴史・文化を柱とした近隣市町との連携が進む地域
- 産業と観光が組み合わさっている地域

【産業】

- 沿線の企業間の物流が活発化し産業が強力になっている地域
- 物流の人手不足がカバーできている地域
- 工業用地の価値が向上している地域

【交通】

- SA/PAで乗り降りでき周遊できるバスが走る地域

3. 目指す姿に向けた取組アイデア（周辺地域と連携あるいは広域連携する具体内容）

【観光】や【交通】において、「SA・PA」の活用アイデアが複数挙げられました。また、医療・教育環境の充実などの【まちづくり】や高校生への地元企業紹介などの【企業誘致】に関する取組アイデアが多く挙げられた点も特徴的です。

【観光】

- 古民家を改修して宿泊施設に転用
- インバウンドに向けた積極的なまちづくり
- 沿線全体で呼び込みプラスαで各観光地に展開
- 周遊のためのマップ・冊子づくり
- SAの充実
- SAを活用した特産物の紹介

【交通】

- IC間バス、ICと主要エリアとの交流促進
- 電車のダイヤ見直し
- 自動運転・新技術対応レーン整備
- SA・PAに集配所・物流センターを設置
- 貨客混載

【企業誘致】

- 地元企業紹介等の高校生など若者へのアプローチ
- 企業誘致による雇用・人口の増加
- さらなる企業誘致
- 工業用水の確保

【まちづくり】

- 医療、教育環境の充実
- 地域のPR
- 移住・定住の促進
- 関西との連携
- 雇用の確保

【道路整備】

- ICアクセス時間の短縮
- ICの増設
- 高速道路ネットワークの拡充

1. 当地区が抱える課題と取り組み

課題としては、「産業」では用地確保・農業振興地域の土地利用に係る課題、「観光・交流」では観光資源の開発・アピールに係る課題、「まちづくり」では定住化や土地利用に係る課題が多く挙げられています。

取組みをみると、「観光・交流」および「まちづくり」に関連して、交通拠点である港湾、駅前広場の利活用が進められています。

【課題】

産業

【用地確保・農業振興地域等の土地利用】

- ・産業用地の不足
- ・行政面積がせまい
- ・農業振興地域のための開発が難しい
- ・市街地調整区域である為、土地利用に制限がある
- ・企業の立地条件・ニーズへの対応が難しい

【渋滞・アクセス性】

- ・高速道路からのアクセス道路整備が十分でない
- ・市内の道路における渋滞

【農業の活性化】

- ・農業従事者の高齢化、後継者不足が深刻化

観光・交流

【観光資源の開発・アピール】

- ・観光資源が乏しい
- ・特産品がない
- ・地域の産業・観光をPRしていく方法の確立

【観光ルート等の整備】

- ・観光ルートの整備
- ・大型観光バス駐車場が少ない

【観光アクセス】

- ・ICまでの道路整備

【滞在時間の拡大】

- ・宿泊観光客が日帰り観光化

まちづくり

【道路交通渋滞・自動車依存】

- ・市内の渋滞
- ・運送会社の拡大による大型車の集中
- ・公共交通機関が少なく車に依存

【人口流出・定住促進】

- ・企業の従業員の住居確保
- ・人口流出への懸念
- ・人口は横ばいでも定住に結びつかない

【都市計画・土地利用】

- ・開発余地が小さい
- ・IC周辺の土地利用
- ・住宅地の開発

【インフラ整備】

- ・高速と中心部を結ぶアクセス道路の整備
- ・災害時の物流支援、広域道路ネットワークの整備

【環境保全】

- ・高速道路開通による住環境への不安

【取組み】

- ・工業団地の分譲開始

- ・大型外国船の誘致、ポートセールス

- ・駅前広場における検討（バス乗降場再編等）

2. 当地区が目指す姿

周辺地域と連携して目指す姿としては、「物流の自動化」、「企業立地促進」、「まちづくり・医療の連携」、「無事故化」が挙げられました。

各地域単独で目指す姿

【産業】

- 企業誘致が進み新たな産業施策に取り組んでいる地域

【観光・交流】

- 都市との交流が身近になる地域

【定住】

- 人口の増加を目指し活性化されている地域

【まちづくり】

- 障害者が安心して住める地域

周辺地域と連携あるいは広域連携して目指す姿

【産業】

- 物流が自動化され効率化されている地域
- 地産品の生産・出荷が増加している地域
- 災害に強い地域特性を活かした企業立地促進を連携して取組む地域

【まちづくり】

- ひとつの圏域としてまちづくりを進める地域
- 広域的に医療が連携されている地域

【交通】

- 高速道路の自動運転化により無事故化されている地域

3. 目指す姿に向けた取組アイデア（周辺地域と連携あるいは広域連携する具体内容）

【交通】や【観光・交流】に関するアイデアが多く挙げられました。特に、P R等の情報発信や公共交通の活用に関するアイデアが複数挙げられた点が特徴的です。

【交通】

- 高速道路の自動運転化
- 高速料金の見直し
- 自動運転技術の活用による渋滞の削減
- E Vスタンドの充実
- 周辺企業や市民へのスマートIC利活用のP R
- リニア停車駅までの広域的なバスの運用
- 市町域を越えた公共交通バスの運行
- 観光地におけるレンタサイクルの充実
- 迂回路マップの作成

【観光・交流】

- 地域間交流のためのオープンデータの推進
- ネットの活用による更なる観光の活性化
- 高速バスの運行による観光客の増加
- 北勢地域での高速を利用した観光マップの作成
- ICにそれぞれインパクトのある施設
- L C Cの増加による誘客
- 高速道路と並行する長い自転車道路整備
- 東環による北陸地域へのアクセス向上P R

【まちづくり】

- IC周辺での土地区画整理事業の活用
- 他地域や国外への利便性向上のP R

【産業】

- 物流効果を高める岐阜方面との広域連携

【道路整備】

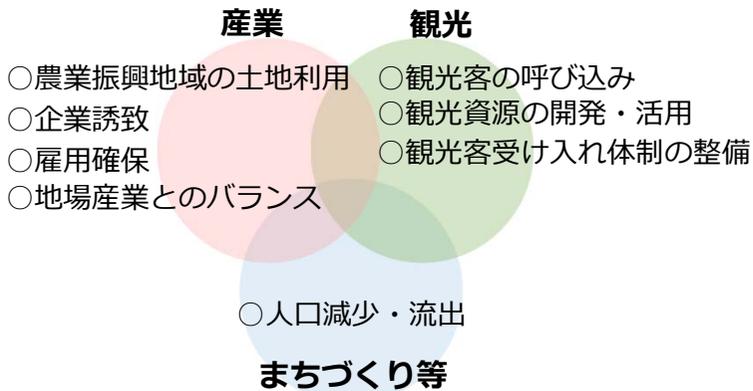
- バイパス等、県内主要道路の整備

ワークショップ結果全体から得られた成果

1. 地域の課題

【共通課題】

共通課題として、産業では、企業誘致の際の農業振興地域の利用や雇用確保、観光では、観光客の呼び込み、まちづくり等では人口減少・流出となりました。



【地域個別課題】

共通課題以外の地域個別に課題は、下表のように整理されます。

	産業	観光	まちづくり等
大野神戸IC地区	・農業の衰退 ・農産品のアピール	・観光ルートの整備 ・宿泊施設不足	・空き屋対策
山県IC地区	・名神の渋滞	・知名度の低さ ・市内観光渋滞の発生	・開発余地が小さい
東回り区間	・企業立地ニーズへの対応 ・BCPに係る東環4車線化	・大規模商業施設以外の観光資源が弱い	・東環開通後の交通量増加に伴う渋滞・安全性の確保 ・公共交通の確保
北勢地区	・渋滞・アクセス性 ・農業の活性化	・観光ルート等の整備 ・観光アクセス ・滞在時間の拡大	・道路交通渋滞・自動車依存 ・都市計画・土地利用 ・環境保全

2. 地域が連携して取り組むテーマ（箇条書きはアイデア）

①東環沿線地域への企業誘致

- ・ I C周辺工業団地整備推進
- ・ 産業誘致を広くPR・地元企業紹介等の高校生など若者へのアプローチ
- ・ 企業誘致による雇用・人口の増加／さらなる企業誘致
- ・ 工業用水の確保
- ・ 関西への販路拡大
- ・ 物流効果を高める岐阜方面との広域連携

②東環沿線地域が一体となった観光客の獲得

- ・ ご当地グルメの作成・PR
- ・ 東環ICを拠点にした福井への街道のPR
- ・ 行政界を超えた観光PR等の連携
- ・ 東環による北陸地域へのアクセス向上PR
- ・ イベントカレンダーの作成
- ・ 東環ICを拠点とした観光ルートの確立／広域観光ルートバス
- ・ 田園地帯の景観を活用した観光資源の開発
- ・ 類似観光施設スタンプラリーでの連携
- ・ 大河ドラマなどの民間とのコラボレーション
- ・ イベント競合をなくして広域テーマを掲げる
- ・ 体験型アクティビティを活かす
- ・ 岐阜羽島駅を拠点とした沿線への観光客の展開
- ・ 沿線全体で呼び込みプラスαで各観光地に展開
- ・ 周遊のためのマップ・冊子づくり／北勢地域での高速を利用した観光マップの作成
- ・ SAの充実とSAを活用した特産物の紹介
- ・ 地域間交流のためのオープンデータの推進
- ・ ネットの活用による更なる観光の活性化
- ・ 高速バスの運行による観光客の増加
- ・ ICにそれぞれインパクトのある施設
- ・ 高速道路と並行する長い自転車道路整備
- ・ インバウンドに向けた積極的なまちづくり
- ・ 四日市港のクルーズ船からの誘客
- ・ LCCの増加による誘客
- ・ 関西地方からの外国人誘客
- ・ 関西向けの共同観光PR／関西スキー客の取り込み

③東環沿線地域が連携した宿泊者の取り込み

- ・ スキー客のキャンプ場等への宿泊者の取り込み
- ・ 宿泊と日帰りの棲み分けした相互連携PR
- ・ 宿泊モデルプランの構築
- ・ 古民家を改修して宿泊施設に転用

④先進技術等を活用した沿線地域内移動の円滑化

- ・ 主要な場所を通るバスルートの作成
- ・ 市町域を超えた公共交通バスの運行
- ・ 東海環状道に公共交通を走らせる
- ・ 自転車レンタルの整備／観光地におけるレンタサイクルの充実
- ・ ラストワンマイルの強化と他交通との連携
- ・ 主要なところに行けるバスルートの開発
- ・ 高速道路の自動運転化
- ・ 料金施策の充実
- ・ IC間バス、ICと主要エリアとの交流促進
- ・ 電車のダイヤ見直し
- ・ 自動運転・新技術対応レーン整備
- ・ SA・PAに集配所・物流センターを設置
- ・ 貨客混載
- ・ バスターミナルと名古屋市直行便の開設
- ・ 高速料金の見直し
- ・ 自動運転技術の活用による渋滞の削減
- ・ EVスタンドの充実
- ・ 周辺企業や市民へのスマートIC利活用のPR
- ・ リニア停車駅までの広域的なバスの運用
- ・ 迂回路マップの作成

⑤東環沿線地域が連携したまちづくり

- ・ IC付近に目玉スポットを形成
- ・ 東環を利用すると通勤時間がよいことのPR
- ・ 名古屋から一番近い農村地域として発信
- ・ 目玉となる場所をつなぐイメージづくり
- ・ 様々な年齢層が楽しめるまちづくり
- ・ 医療、教育環境の充実
- ・ 地域のPR／他地域や国外への利便性向上のPR
- ・ 移住・定住の促進
- ・ 関西との連携
- ・ 雇用の確保
- ・ IC周辺での土地区画整理事業の活用

⑥連携を促進する道路整備

- ・ 大野神戸ICを起点とした道路整備
- ・ 大野神戸ICから関ヶ原ICへのアクセス改善
- ・ ICアクセス時間の短縮
- ・ ICの増設
- ・ 高速道路ネットワークの拡充
- ・ バイパス等、県内主要道路の整備